

関連づけてすすめる 家庭と家族関係，住生活の学習

実際の生活において、衣食住は、家族・家庭と切り離して考えることはできない。だが、衣食の分野と異なり、家族・家庭、住生活の分野は、中学生にとって身近にありながら、あらためて考えたり、実習、実践できる場面が少ない。そこで住生活を学習していく中で、単なる知識の習得だけでなく、家庭・家族と関連づけて、学習していけるような実習を取り入れた題材を工夫した。

1. 実践例について

実践した題材は、1つの学年で1年間で実施したのではなく、3年間にわたって実施したものである。年度や生徒の実態、他教科との関連を考え、どの題材をいつ取り入れるか考えている。しかし、必ず家庭や家族の基本的機能をおさえてから、それぞれの題材に入るようにしている。また、幼児の生活と併せて導入にもってくる場合もある。

(1) 家庭や家族の基本的機能について、個人の意見、考えをワークシートに記入した後、班ごとに意見交流してまとめ、その後クラス内で発表する

身近にありながら、あらためて家庭や家族について考える機会は少なく、人によって考え方、とらえ方が異なり、お互いの考え方や違いに気付かせるため、班の中での意見交流は、必ず行う。

(2) 間取り図を考えよう

住居の基本的な機能を教えるだけでなく、そこに必ず、何人家族か、どのような生活様式で暮らしているかイメージさせてから、製作させる。

(3) 誰もが暮らしやすい住まいについて考えよう

10年後、20年後、家族、住まいはどのように変化しているかを、将来の見通しをもたせるために考えさせる。興味づけとして、アニメ、コミックの中に出てくる家族構成と間取り図を題材にする。

(4) 学校の中のユニバーサルデザインをさがそう

少子高齢社会に伴い、最近ではユニバーサルデザインを取り入れた施設や住宅が増えているが、授業の一環で校外に出て、調査、実習することは大変むずかしい。そこで、1日の内で最も長い時間を過ごしている学校

の中で調査、実習を行う。

(5) その他、年度や他教科との関連で実施したもの

- ・住宅広告の活用
- ・家族について考えよう～色々な生き方、暮らし方～
- ・冬休みの課題として、大掃除レポート
- ・防災教育と関連づけて、住まいの安全について

2. 具体的な授業内容

(1) 間取り図を考えよう

①住まいの基本的な機能について、ワークシートを用いて説明、理解させる。さらに、教室の机と机の間、廊下の幅などから、実際の住空間を実感させる。あらかじめ計っておいた教室の中の寸法を例にとると理解させやすい。

②ワークシートを使用し、間取り図を作成。

家族の形態により、必要なスペース、部屋の数などが変わることをアドバイスする。ワークシートに書くより、平面表示記号を切り抜いて貼るほうがよい。

人間が行動するのに必要なスペースを実感させてから作業に入るのは、ユニバーサルデザインや、高齢者のことを考えるのに有効であった。

③班の中で出来上がった間取り図について発表。

(2) 誰もがくらしやすい住まいを考えよう

①よく題材に取り上げられるのが、サザエさん一家であるが、それだけでは、他教科で例に出てくることも多いので、『名作マンガの間取り』より、ドラえもん、ちびまる子ちゃんなど幼いころから親しんでいるアニメ、コミックの間取り図を見せる。あわせて家族構成にも触れる。

②家族の人数は、時間の流れの中で変化していくこと

も伝え、10年後、20年後の家族構成、住居をどのように増築、改築していくか、個人で考えさせる。興味に応じて、現代の住まいとの違いを考えさせてもよい。建築のルールにこだわらず、自由に考えさせるが、大幅に間違っているものにはアドバイスをする。

③班の中で意見交流、発表後、『名作マンガ・傑作ドラマで考える家と間取り』を例にとり、解答例を示す。

(3) 学校の中のユニバーサルデザインをさがそう

①『ユニバーサルデザインの7原則』について説明。

- 1) プリント、ワークなどを用い、7原則を確認。
- 2) 具体例をあげる。生活用品など身近なものの実物を見せる。
- 3) 校舎配置図を配布。学校の中で、ユニバーサルデザインの考えがとりいれられたところ、そうでないところ、危険なところを個人でチェックさせ、ノートに箇条書きで整理。

②班ごとに意見をまとめ、作成。

色画用紙を用い、項目ごとに色分けしてまとめた意見を書き、模造紙に校舎配置図とともにレイアウトを考えながら貼り付けていく。

③まとめ

時間に余裕のある場合は、班ごとに発表して掲示。なければ、掲示して投票、または感想を書かせる。

3. 生徒の様子、反応

住生活の分野で家庭・家族に関することは、自分自身に深く関わっているためか、最初は自分の意見がうまくまとめられなかった生徒が目についたが、アニメ、コミックの間取り図や家族、学校を例にとった班ごとの話し合いの場面になると、活発に意見が出てくるようになった。また、同じものを見ていても違う視点で見ていることにあらためて気づかされた。

4. 今後の課題

今回は、家族と家庭と住生活を関連づけたが、幼児

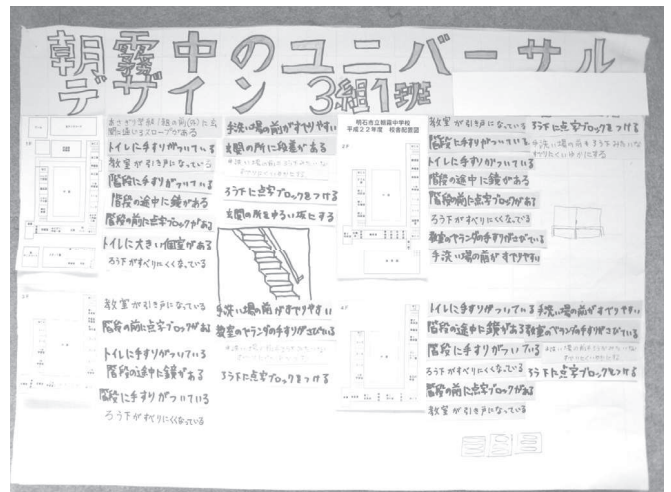


図1 班ごとに作成したもの

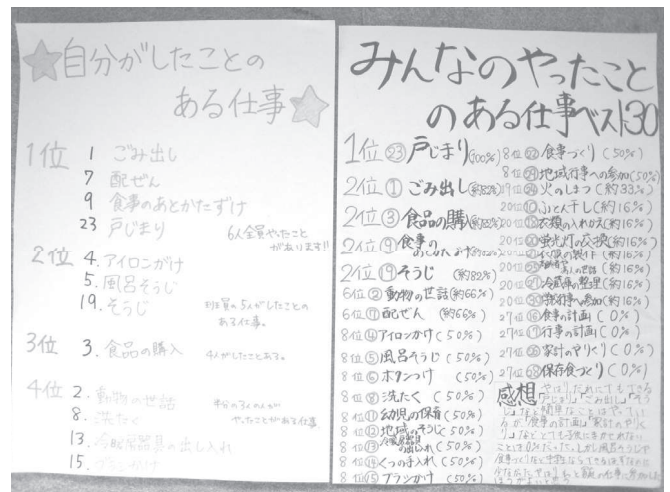


図2 家庭・家族の基本的機能 班ごとの発表に使用

に関する分野でも関連づけて授業をすすめることもできると思う。

また、ひとつの題材を終えると、その分野の学習が終了してしまうのではなく、さまざまな題材を関連づけて学習させることは、知識や技能の定着にもつながっていくのではないだろうかと思う。さらに3年間の見通しをもった実践的、体験的な学習を通じて、将来の自分のために生きていく上で必要な力を養えるようにしていきたい。

参考文献・参考Webページなど

- ・ 柏原 士郎『ユニバーサルデザインがわかる事典』PHP 研究所 (2009)
- ・ 影山 明仁『名作マンガの間取り』ソフトバンククリエイティブ (2008)
- ・ 佐川 旭『名作マンガ・傑作ドラマで考える家と間取り ウッドデッキから「んちゃ!」』アールズ出版 (2009)